

AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会 / (公財) 日本自然保護協会 / 林野庁関東森林管理局

赤谷の森だより

2017.02.01

vol. 34



オニグルミ
冬芽春待ち
ひつじ顔

赤谷の森でわかったこと

「自然林への誘導に取り組んできて」

関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター 自然再生指導官

藤木 久司

トピックス

● 地域と繋がる赤谷プロジェクト

カスタネット工房 代表 富澤 健一

● たくみの里「森の恵みと学びの家」から

市毛 亮

▲赤谷プロジェクトサポーター竹村さん撮影(ムタコ沢)

赤谷の森 写真館

今回のテーマ

旧三国街道
・三国峠に
佇む道祖神



新潟側登山口の道祖神



新潟側登山道の道祖神



三坂三社神社協の道祖神



駒返し馬頭観音

赤谷の森で わかつたこと

「自然林への誘導に取り組んできて」

関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター 自然再生指導官 藤木 久司

赤谷プロジェクトは平成16年から「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」の二つの目標を掲げて取り組んできました。そのうち「生物多様性の復元」は、赤谷プロジェクトエリア内の人工林を自然林に復元していこうというもの。約3,000 haの人工林には、土壌条件や気象条件などが適さない場所にスギやカラマツなどが植えられているケースが少なくありません。このような状況にある人工林のうち約2,000 haを生き物や植物が再び生息できる森林にすることを目標としています。

では、自然林とはどういうものか。どのような森林に復元していくのか。赤谷プロジェクトの「人工林を自然林に誘導するための手法」などを検討している植生管理ワーキンググループでは、エリア内の標高や土壌条件を調べ、人の手が加わらなければどのような自然林になっていくかを予想した潜在植生図を作成し、将来の目標としました。そこで、どのようにしたら人工林を少しでも早く自然林に復元できるか。このような事例が全国的にも少ないことから、条件の違う人工林で、伐採の方法などを工夫しながら試験地を設定し、復元する様子をモニタリングしてきました。

また、自然

林へ誘導するための森林の整備は、利根沼田森林管理署の事業として進んできました。プロジェクト開始当時は赤谷の森の

人工林が間伐の適期である25～60年生の森林が多くを占めていたことから、現在までのところ自然林への誘導を念頭におきながら主として間伐を実施してきました。(図)は赤谷プロジェクトが始まった平成16年から平成27年までに自然林への誘導に取り組んだ箇所的位置図です。約2,000 haの自然林へ誘導していく人工林のうち、約700 haについて間伐を主体に取組を進めてきました。また、あわせて人工林として維持していく約1,000 haについても、健全な森林を目指して約400 haの整理が進められています。

この12年間の試験地のモニタリングで「伐採する前の森林がどのような状況だったか」「何代前から人工林として管理してきたのか」「周りにはどのような森林があるか」など、森林の状況を確認し、いきなり全部伐採してもスムーズに自然林へ誘導できるか、間伐をして周りから広葉樹などが入ってくるのを促した方がより早く自然林に復元できるのではないかなど、様々なアプローチ方法を検討してきたデータが積み上げられています。赤谷プロジェクトではこれからも色々な知見を積み重ね、全国の森林管理に提言していけるよう取り組んでいきます。



(図) 12年間で自然林への誘導が取り組まれた森林



スギ人工林を伐採し5年目の試験地の様子



カラマツ人工林を伐採し10年目の試験地の様子



地域と繋がる赤谷プロジェクト



カスタネット工房

代表
富澤 健一さん

◀奥様の喜美恵さんと



地元の材で作ったカスタネット達



カスタネット製造の様子



商売道具の刃物

自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

みなかみ町布施で、地元の広葉樹の材を使ったカスタネットを製造しています。最近では、弊社で制作したカスタネットをみなかみ町の全小学校の新入生への入学祝い品として活用してもらったり、みなかみ町が始めたウッドスタート(出産お祝いとして地元の木製玩具を贈る取り組み)にも、カスタネットを活用してもらっています。また、依頼を受けてカスタネット以外の楽器やおもちゃも作っています。

赤谷プロジェクト関係者と知り合ったきっかけを教えてください。

2013年頃、日本自然保護協会の出島誠一さんから、地元の材でもう一度カスタネットを作ってほしいと依頼を受けたのがきっかけです。依頼を受けた時期は、もうカスタネットの製造はやめていて、機械を処分しようと思っていたざりざりのタイミングでした。その後、赤谷プロジェクト地域協議会にも加入しました。

今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

夫婦二人だけの手仕事にはなりますが、赤谷プロジェクトのお手伝いができるのなら、これからもカスタネットを作りたいと思っています。要望があれば、カスタネット以外のいろいろなものにもチャレンジしたいです。

工房のPRを一言!お願いします。

カスタネットは、材料のブナ、ヤマザクラ、ミズメ、クリなどの樹種によっても少しずつ音が違います。たくみの里の「森の恵みと学びの家」では絵付けやレーザー加工での模様付けもできるのでぜひ体験してみてください。

たくみの里

「森の恵みと学びの家」から

今回は、みなかみ町が推進している「自伐型林業」の取り組みについて紹介したいと思います。

みなかみ町は、総面積78,108haのうち、約90%を森林が占めており、森林資源にとっても恵まれた地域です。しかし、町が行った山林所有者アンケートによると、「山林が適正に管理されている」と答えた方は全体の約13%で、森林保全や木材等の資源の利活用については、課題もあります。

そこで、町では、多くの方に森林や林業に興味を持ってもらい、森林資源の利活用を進めるため、今年度より「自伐型林業」を推進しています。

「自伐型林業」とは、山林所有者や地域の人自らが長期的な視点で山の手入れをする林業です。また、小規模機械・低投資で始められるため、多くの方が参入しやすく、観光業や農業との兼業も可能です。

8月末には、「自伐型林業フォーラムinみなかみ」が開催され、町内外から多くの方が集まり、「自伐型林業」への関心の



一般財団法人
みなかみ農村公園公社
いちげ まこと
市毛 亮さん



高さがうかがえました。また、10月からは、チェーンソーの取扱いや伐倒・作業道開設の技術を学べる「自伐型林業研修」も始まりました。私も研修に参加し、「自伐型林業」について学んでいます。「自伐型林業」が盛んな高知県などの西日本エリアとは環境が違い地域特有の課題もありますが、みなかみ町においても可能性に満ちた林業であると、研修を通じて感じています。

「自伐型林業」は人と自然の共生を目指す林業で、ユネスコエコパークの理念と合致しています。これからたくさんの方の自伐林家が生まれることを期待しています。



自伐型林業研修の様子

▼「自伐型林業」についてのお問合先
みなかみ町総合戦略課戦略推進グループ (Tel.0278-25-5004)

赤谷プロジェクト に関する イベント予定



■赤谷の森自然散策(冬) 開催日：H.29.2.11(土・祝)

・赤谷センター HP で募集中!

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/news/index.html

【募集期限】
H.29.2.3(金)まで

■赤谷の森学校「雪の赤谷の森に集まろう!」 開催日：H.29.2.18(土)～19(日)

・赤谷の森学校主催イベントの詳細は、下記サイトにアクセスください。

http://www.jugemusha.com/akayamori/activity_oyakoinaka.html





色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



H28.10.13

群馬県立農林大学校校外学習

森林環境コース2年生が生物多様性の復元と持続的な地域づくりについて学習しました。



H28.10.14

源流域の魅力と地域づくり体験 in みなかみ町

利根川交流会主催のシンポジウムに、赤谷センターより魚住所長がパネリストとして参加しました。



H28.10.16

親子どんぐり拾い～新治小、未来へつなぐ森づくり～

地元の森づくりに一緒に取り組もうと、新治小の生徒とPTAで、どんぐりを拾いました。育てた苗を来年植えます。



H28.10.23

赤谷の森自然散策～私の秋、赤谷の森にありました～

みなかみ町との共催で紅葉に染まる旧三国街道の散策をし、森の中の民話や紙芝居の鑑賞を楽しみました。



H28.10.25・11.14・11.21

放課後子供教室(ももの子くらぶ、岳の子クラブ、古馬牧っ子わくわく教室)

「森の恵みと学びの家」と協働でみなかみ町内の「放課後子供教室」にお邪魔しました。



H28.11.8

花見川中(千葉市)「森の探検ウォークラリー」

赤谷の森のいきもの、森の恵みや森と私たちのつながりについて、楽しみながら学んでもらいました。



H28.11.9

環境省自然保護官研修

自然保護官等を対象に赤谷プロジェクトの取組を協定3者が揃って紹介し、地域と協働でのプロジェクトの取り組み方等について多くの質問がされました。



H28.12.1

新治小旧三国街道遠足の事後学習

10月に行った遠足の振り返り学習を行いました。自分たちが設置したセンサーカメラに写っていた動物たちに生徒も驚きの声を上げていました。



H28.12.4

沼田ごったくまつり

ヒノキの球果を使ったストラップづくりやどんぐり転がしなど、多くの方に自然の素材で遊んでもらいました。

赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は

[赤谷森林ふれあい推進センター](#)

[検索](#)



赤谷プロジェクトサポーター募集!

(たくさんの笑顔がまっています (^o^)/)



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会：松井・島

赤谷の森・基本構想掲載サイト

赤谷プロジェクトの目標や取組内容などについて詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

http://www.nacsj.or.jp/akaya/ap_masterplan.html (公財)日本自然保護協会

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/akaya/akayanomori-kihonkousou2015.html> 林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※森の恵みと学びの案内

理事(事務担当) 市毛 亮

メールアドレス m-ichige@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 松井 宏宇

<http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html>

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局 赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 魚住 悠哉

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html

メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp